

授業科目 運動負荷学

【担当教員名】 樺 淳裕		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎		
【概要・一般目標：G10】 運動に伴う呼吸・循環反応や代謝経路について理解し、理学療法治療で行う運動の強度設定やその根拠を理解する。また、安静時や運動時の心電図を理解し、リスク管理の基礎として役立てる。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と健康との関連や運動の功罪について説明できる。 2. 運動に必要なエネルギーおよびその代謝経路について列挙できる。 3. 運動時の生体反応や運動負荷試験について、説明できる。 4. 根拠に基づいて、運動を処方することができる。 5. 運動の禁忌について、説明することができる。 6. 運動時の循環動態調節について、説明できる。 7. 心電図の基礎波形について、説明できる。 8. 不整脈と運動について説明できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	運動と健康、運動の功罪、運動と体力			1	講義
2	運動の種類とエネルギー供給			2	講義
3	運動時の生体反応と運動負荷テスト			3	講義
4	運動処方と運動の禁忌			4, 5	講義
5	運動時の循環動態調節			6	講義
6	心電図の基礎波形			7	講義
7	不整脈と運動			8	講義
8	まとめ			1-8	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		理学療法士のための運動処方マニュアル 第2版	奈良勲(編)、大成浄志(編)、川口浩太郎(編)	文光堂	2010・4,200円
参考書		運動処方の指針 原著第8版	日本体力医学会体力科学編集委員会(監訳)	南江堂	2011・3,500円+税
その他の資料		必要に応じ、資料を配布			
【評価方法】 定期試験、出席、小テストまたは課題、授業態度等、総合的に評価します。			【履修上の留意点】 生理学や運動学の理解が不可欠です。関連分野を復習した上で、授業に臨んで下さい。		